

様式 11 評価テーマに対する提案

あいさつから ひとつの「まち」へ ~庭がつながる交流~

交流のきっかけとなる場所となる「庭」を団地全体に散りばめることで、各所にコミュニティが生まれ、団地全体にコミュニティの輪が広がる、あたたかな住環境とすることを旨とします。また、まとまりのある建物配置により団地に一体感を与え、やわらかなスカイラインにより、周囲の山並みに調和させることで、熊野のまちとつながりをもった団地づくりを提案します。

筆と半紙をモチーフにした南側外観イメージ

住民を迎え入れる鳥瞰北側イメージ

おてかけの庭イメージ

小陰の庭・風の庭のイメージ

憩いの庭・みんなの道イメージ

概算工事費			
区分	第1期	第2期、第3期	全体
建築工事費	886百万円	1,341百万円	2,227百万円
設備工事費	244百万円	368百万円	612百万円
外構等	156百万円	213百万円	369百万円
総工事費	1,286百万円	1,922百万円	3,208百万円

※解体工事は別途。消費税相当額を含まない。



テーマ1「持続可能な団地コミュニティの形成」について

アルコーブ

- 玄関前にアルコーブを設けます。ポーチのような感覚で、自分(家族)を表現する場として利用したり、会話を楽しんだり、隣人となつたりを生む場となります。
- ベンチ等を置くことで、高齢者の見守り訪問時等にも、玄関先の会話しやすい空間となります。

憩いの庭

- 住棟から直接利用でき、小さな子どもや高齢者等が、静かにゆったりとくつろぐことができる空間とします。
- 各住棟の「プライベート庭」としての専有感があり、住棟内の仲間意識が生まれます。また、「みんなの道」により、それぞれの「憩いの庭」につながりを持たせ、他住棟との間も交流が生まれます。

見晴らしの庭

- 団地内通路の端部に「抜け」をつくることで、団地内に行き止まり感や、閉塞感がない計画とします。また、眺望がよく、熊野のまちなみや山並みを望むことができ、自分が住むまち、ふるさとを感じる場となります。

集いの庭

- 各住棟から集まりやすい場所に配置します。また、各住棟や駐車場等、全体から見守りやすい場所となっています。
- 住棟から離れた場所に計画することで、にぎやかな声が住戸内に届くの緩和させます。
- 集会所と隣接させることで、一体的な利用もできるように計画しています。

おてかけの庭

- 出かける時のうきうきした気持ちを誰かに話したり、帰ってきた時にはお土産話をしたり、奥行きのあるアプローチとすることで、ゆったりと会話を楽しみながら、外出や帰宅ができます。
- デイサービス等の送迎車、緊急車両等が進入可能な仕上とします。

交流を生む「庭」の関係イメージ

交流のきっかけとなる、いろいろな「庭」は、それぞれ独立して配置するだけでなく、つながりを持たせます。そこから、交流は途切れることなくつながり、団地全体にコミュニティは広がっていきます。

余白(ゆとり)

- 住棟を各期1棟に集約することで、団地内に余白(ゆとり)をつくり、コミュニティ(交流)のきっかけとなる場所となる「庭」を団地全体に散りばめます。

庭土士のつながり

- 交流のきっかけとなる、いろいろな「庭」は、それぞれ独立して配置するだけでなく、つながりを持たせます。そこから、交流は途切れることなくつながり、団地全体にコミュニティは広がっていきます。

家族とつながる間取り

開放廊下

アルコーブ

MB

玄関

浴室

洗面

WC

洋室

和室

見守り

DK

洋室(にもなる)

引戸

バルコニー

一体的に利用

テーマ2「実現性の高いコストの削減策」について

スケルトン・インフィル

- 内装・設備をインフィル、躯体をスケルトンとすることで建物の長期耐用化を図ります。将来の住まい手の生活変化に対応可能であり、改修・更新性を高めることで、ライフサイクルコスト削減が行えます。

配管の集約、二重床

- 水回りは全て集約するとともに二重床を設けPSを集中配置します。集中配置と二重床のため同一階から作業が可能となり可変性、施工性に配慮します。

スラブ

- プレキャストコンクリート板を採用し、小梁、型枠、支保工の省略による作業効率の向上と工期短縮によりコスト削減を図ります。また、遮音性の向上と小梁のないフラットな天井面による、居住空間の確保が可能です。

壁(外部)

- バルコニー、共用廊下側の外壁の一部をALCにすることで、型枠工事、耐震スリットが不要となり工期短縮、コスト削減を図ります。

壁(内部)

- 住戸間壁の耐震壁を除いた部分を乾式化とすることで、躯体重量を軽減しコスト削減を図ります。

残土利用

- 基礎工事で発生する残土を「憩いの庭」の築山へ利用します。残土処分費の削減と子どもたちの遊び、静かな場の景観形成に利用します。

その他

- 各階平面、柱、梁を同一整形な計画とすることで工期短縮によるコスト削減を図ります。
- 柱梁接合部の鉄筋に機械式定着工法を採用し、品質確保、施工性向上により工期短縮を図りコスト削減を行います。

テーマ3「地域のまちなみに調和した景観形成」について

周辺環境との関係イメージ

石嶽山

スカイライン

三石山

1号館

2号館

1・2号館との交流も可

1・2号館からの距離を確保

グリーンベルト

各住棟の憩いの庭はつながりを持った配置とすることで、隣地へのバッファーとなり周辺住宅にも豊かな緑の潤いを与えます。

3期は高さを抑え周辺住宅への圧迫感を軽減

特産物を活かした外観・形状

- 熊野町といえば「熊野筆」が特産物として有名です。この場所に建つ建物だからこそ外観や形状を取り入れ、町を表現することで、町に誇れる建物となることを期待します。
- 半紙に墨を含ませた熊野筆で書くことをモチーフとし、半紙の白色と墨の黒色を外観に表すことで、熊野町そのものを住棟へ表現します。
- 団地内でも特に交流が行われ、コミュニティの中心となる木造の集会所は、「熊野筆」をモチーフに計画します。墨を付けた筆を半紙になでるように書くイメージで、しなやかな穂首を集会所とし、軸(筆管)を縁側と仮定することで、住民だけでなく、様々な方が熊野筆(集会所)に集まるという意味も込めています。

日影計画

- 周辺への日影を配慮し、高層住棟を南側に計画することで、日影の範囲を抑えます。
- 高層により団地従来の横広な壁面の圧迫感を軽減します。

やわらかな建物配置

- 周囲には、重なり合う山々を望むことができます。その山並みに調和するように、建物角度や階構成に変化をもたせ、やわらかなスカイラインを描き、単調にながちな集合住宅に動き(リズム感)を持たせます。
- 団地としてのまとまり感があり、また、団地入口側を包み込み、出迎えるような配置とします。